



6 入所者の皆さんの笑顔に勇気づけられました(鳴子温泉)



4 3月に開催されたコンクールは大勢の人の熱気に包まれました(松山)



2 カレンダーの表紙は、地元の画家が描いた有備館(岩出山)



7 安心・安全の願いを込めたのぼり旗が立ち並びました(松山)



5 つみれ料理で自慢の腕前を競いました(大貫)



3 地域課題を的確に把握するための、大切な基礎固め(西大崎)



1 地域にはまだまだ知らないことがたくさんあります(西古川)

地域の挑戦が始まった

大崎市流地域自治組織活動 チャレンジ事業が各地域で展開されました

三月二十三日に中央公民館を会場に、地域自治組織活性化事業交付金チャレンジ事業実施報告会が開かれ、各団体から平成十九年度中に実施した十三のチャレンジ事業についての報告と意見交換が行われました。チャレンジ事業とは、自ら地域の課題を考え、解決するための事業を提案(プレゼンテーション)し、審査を通った事業に対して交付金を交付するもので、地域の企画立案、経営などが試される取り組みです。今回は、全チャレンジ事業をご紹介します。

◎まちづくり推進課 ☎5069

地域を知る

●ふるさと再発見

西古川地区振興協議会(古川)がチャレンジ事業で取り組んだのは、「ふるさと再発見組」だ。『西古川の史跡・文化財の発掘と保存』で、西古川の史跡マップ、案内標識、小冊子などを作成しました。

地域の文化財、史跡の再発見と、それらを後世に正しく伝えるための保存活動などを通して郷土愛をほぐももうというものです。小学生からお年寄りまで多くの地域住民が参加した勉強

会では、自分たちの身近にある史跡を訪ね歩くなど、今まで見過ごしていた地域資源を再発見できました。【写真1】

●情報満載地域カレンダー

岩出山まちづくり協議会では、「情報共有による地域活動支援事業」に取り組みしました。合併後に地域の身近な情報が不足しているという地域課題を解消するため、岩出山地域にある四つの地域づくり委員会が連携して集約した地域内の主要行事や学校・各種団体などの事業を盛り込んだカレンダーを作成し、地域の全

戸に無償配布しました。地域色あふれたカレンダーは、「ぜひ来年も発行してほしい」と好評でした。【写真2】

●地域活性化の基礎固め

西大崎地域自治協議会(岩出山)は、地域自治組織の認知と定着を最大のテーマに、「西大崎地域活性化ベースづくり事業」を実施しました。先進地への視察や地域づくり講演会を通し先駆的な取り組みを学ぶとともに、地域防災マップ、地域探訪マップの作成など地域自治組織の基礎固めを図りました。【写真3】

地域から発信

●喝采の中で歌コンクール

松山まちづくり協議会教育文化部は、「フランク永井歌コンクール事業」で、新たなイベントに挑戦しました。松山が生んだ昭和を代表する歌手フランク永井さんの歌を歌い継ぎ、コンクールを通して大崎市のすばらしさの発信と地域の連帯感を生み出すというものです。

今でも幅広いファンから支持されていることが実証され、これからはますます大きなコンクールになることを予見させるものとなりました。【写真4】

●加護坊山に見守られ

大貫かんぼやま委員会(田尻)でも、イベントによる情報発信に挑戦しました。地域のシンボル加護坊山に

代表される田尻地域大貫地区の歴史と自然、有形無形の宝を再認識し、それらを次の世代に伝えるため、「大貫かんぼやま祭り」では、そのすばらしさを発信しました。「フォトコンテスト」には市外からも多数の出展があり、郷土料理の「つみれコンテスト」はおもてなし料理のひとつとして名乗りを上げるチャンスとなりました。

一般にまだ知られていない大貫金山の歴史調査の発表なども好評で、蕪栗沼や加護坊山などの地域資源を広く発信できました。【写真5】

●そらいろの浴衣で晴れやかに

鳴子地区地域づくりネットワークは、七月のプレゼンテーションでの落選を乗り越えて十月の再挑戦が実った、まさにチャレンジ事業を地でいくものとなりました。「踊ればわかる鳴子の心」浴衣で踊って地域を知ろう」は、こけし囃子や鳴子音頭の踊りの披露や交流、各種イベント参加などを通して感謝の心とおもてなしの心を併せ持った鳴子の心を感じ取ってもらう取り組みです。三本木の老人ホームを慰問するなど、地域の枠を超えた活動を実践しました。【写真6】

地域と子どもたち

●子どもの目線で安全確認

地域の宝である子どもたちを見守りはくむためのチャレンジ事業もあります。松山まちづくり協議会の安心安全部会は、「子どもの地域安全対策事業」として、子どもの目線での地域安全マップの作成、子ども一〇番の家

成など、地域の子どもたちを地域全体で見守る取り組みを実施しました。「子ども一〇番の家」のぼり旗がまちの中に増えていくにつれて、まちづくり協議会の活動が、地域に浸透していくことを実感できました。【写真7】

●地域で子どもと向き合う

志田中部地区振興協議会(古川)では、地域の人たちが自ら先生役になって地域の子どもたちと向き合う「子育て支援事業・志田っ子山楽校」を実施しました。畑仕事、川遊び、灯ろう流しやしめ縄づくりなど、一年を通していろいろな行事が実施され、子どもたちとそれを見守る幅広い年代から参加がありました。【写真8】

●交流の中から地域を再認識

まやま地域づくり委員会(岩出山)では、「農村と都市交流事業・夏休み！田舎探検inいわでやま」を実施し、以前から交流のある東京都江東区の子どもたちとの交流を通して、地域の再発見と今後の課題発見、地域の活性化を図りました。古川地域からも多数参加があり、交流の輪の広がりが感じられました。【写真9】